

(3) 「意思決定を取り入れた討論型の学習」実践事例

ア 実践事例「地理的分野」

第 1 学年 「世界の諸地域」 -北アメリカ州- (7/7)

本時の目標

アメリカ型の生活様式の導入が及ぼす影響に気付き、今後更に取り入れるべきかどうかを判断し、根拠を基に理由を付けて説明することができる。



本時の展開の概要

アメリカ合衆国の大規模な農業や工業の発展の原因と人々の生活や世界への影響について理解させた。その過程で、世界に広がるアメリカ型の生活様式が資源の大量消費につながったり、国(地域)の良さを薄れさせたりしている問題点についても着目させた上で意思決定を迫った。

本時に取り上げる社会的な問題【社会的な問題のパターン】

アメリカ型の生活様式を更に取り入れれば、資源を大量消費したり、国(地域)の良さが薄れたりすること【解決すべき事柄】

本時の様子

主な学習活動	教師の指導・支援
○前時までの学習を振り返る。 ○学習のめあてを確認する。	○アメリカ型の生活様式がもたらす良さの問題点があったことを確認し、本時のめあてへと導いた。そして、これまでの学習を振り返り、これからの日本について考えることを確認した。
めあて 日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか考えよう。	
<div data-bbox="143 1209 662 1406" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>社会的な問題【解決すべき事柄】 アメリカ型の生活様式を更に取り入れれば、資源を大量消費したり、国(地域)の良さが薄れたりすること。</p> </div> ○自分の主張を明確にする。 ○学習問題Ⅱを解決する。 (1) グループ内でお互いに自分の主張を 発表し、意見を出し合う。 <div data-bbox="226 1697 539 1930" style="text-align: center;">  </div> (2) グループで主張をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループの主張の作成 ・目指す社会像についての考察 	<div data-bbox="705 1191 1177 1415" style="text-align: center;">  </div> ○挙手によって、現段階でのそれぞれの立場の人数を確認し、学級全体の状況を生徒に把握させた。 ○事前に、同じ立場の生徒同士でグループ編成を行い、グループ内で自分の主張を出し合わせて、考えを深めさせ、それぞれの主張に対し、互いに質問をさせた。 ○話合いの中で出された意見をワークシートに記入するように指示し、各自の考えを基に、グループとしての考えを、理由を付けてまとめさせた。 ○グループでまとめた主張は、何を大切にすることになるのか、また、どのような世の中を目指すのかについても考えさせ、小型のホワイトボードに、目指す社会像、主

- ・小型のホワイトボードへの記入
- ・発表者の決定

(3) グループでまとめた目指す社会像と主張を発表する。

〈学級全体〉

(4) グループごとの発表に対して質問し、自分の考えを深める。

〈学級全体〉

○「日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか」ということについて、最終判断をする。

(意思決定) 〈個人〉

○今日の学習を振り返り、次時の学習について確認する。

〈学級全体〉

張、理由を記入させ、発表する際は、その理由や根拠となる資料を付けて発表させた。

○資料で判断したことや、グループで話し合ったことを参考にして、「日本は、アメリカ型の生活様式を、今後更に取り入れるべきか」について、最終的な自分の主張をまとめさせ、これからの日本はどうあるべきかを考えさせ、ワークシートに記入させた。なお、自分の主張をまとめるに当たっては、必ずしもグループでまとめた主張に従う必要はなく、他のグループの発表等も参考にしながら、個人として判断することを確認した。

○代表の生徒数名に発表させ、今日の学習を振り返らせた。



実践を終えて (成果と課題)

【成果】

- アメリカ合衆国の特色について、良い点を中心にまとめた後、資料等を基に問題点について考えていった。自分たちの生活に身近なものとして捉えさせるために写真資料を提示したことで、その後の活動が意欲的になっていったと考える。初めから論題を設定するのではなく、生徒と共に導き出していくことで、生徒の主体的な学びにつながっていくと考える。
- 班での話し合いの結果をホワイトボードに記入させ、黒板に掲示した。討論を行う際や、意思決定の場面で、他の班の意見を見ながら質問したり反論したり、自分の意見をまとめる際の参考にしたりする生徒が多く、有効であったと考えられる。

【課題】

- 習得した知識を活用して、話し合いや質問、反論、最終的な記述をすることが十分にできていなかった。根拠となる資料等が視覚的に分かりやすいワークシートの工夫が必要であると考え。論題設定の場面では、賛成・反対のどちらかに意見が偏らないように、提示する資料の内容や量に配慮が必要で、その後の調査活動では、バランスよく資料を提供した。より詳しく、現実に近い付いていくためには、資料もたくさん必要になるが、生徒が混乱せず、整理ができる量を把握して提供することが必要であると考え。

指導案へ

イ 実践事例「歴史的分野」

第 2 学年 「近代国家の歩みと国際社会」 -新しい価値観のもとで- (8/8)

本時の目標

日本が開国した判断の是非について、討論の内容を踏まえながら、自分の考えを再構築し、適切に表現することができる。

本時の展開の概要

開国による政治的・経済的・文化的な影響や明治維新の様々な改革について理解させた。開国の是非について意思決定を迫り、開国が人々の生活に与えたプラスとマイナスの両面について整理させ、開国が人々の生活に与えた影響を根拠にししながら自分の考えを主張させた。

本時に取り上げる社会的な問題【社会的な問題のパターン】

江戸幕府が鎖国をやめて開国したこと【研究や論争の材料となる事件】

本時の様子

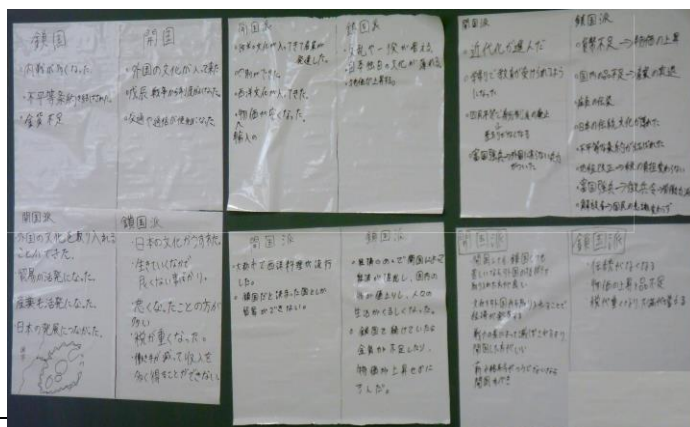
学習活動	教師の指導・支援
<p>○前時までの内容を振り返る。</p> <p>○本時のめあてをつくる。 〈学級全体〉</p>	<p>○キーワードを板書することで、これまでの学習内容を具体的に思い出させ、本時のめあてを確認させた。</p>
<p>めあて 他の方の意見を参考にしながら、日本の開国について考えを深めよう</p>	
<p>社会的な問題【解決すべき課題】</p> <p>江戸幕府が鎖国をやめて開国したこと。</p>	
<p>学習問題Ⅱ 日本は開国して良かったのだろうか</p>	
<p>○学習問題Ⅱに対する自分の考えを確認する。</p> <p>○学習問題Ⅱに対して、開国派と鎖国派のそれぞれの立場になってグループで討論を行う。 〈グループ〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈討論の流れ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 発表タイム (班で自分の意見を発表する。) 作戦タイム (班員の意見に対する質問・意見を考える。) 反撃タイム (考えた質問・意見を発表する。) </div> <p>○グループでの討論を参考に、自分の考えを発表させる。 〈学級全体〉</p>	<p>○自分がどのような立場かを再度確認させ、自分と同じ立場の意見については、自分が書いていない新しい情報のメモを取り、自分の意見を補うために必要な情報かを選択させた。自分と異なる立場の意見については、メモを取り、反論できるものか、納得いくものかを判断させた。</p> <p>○討論の意見を整理させることで、意志決定の判断材料にする意識を高めさせ、説得力が増すように、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現するように促した。</p> <p>○学習問題Ⅱについて、これまでの自分の意見と討論で出た意見を参考にし、自分の考えを深めさせながら、ワー</p>

○討論で出た意見を踏まえ、再度開国派か鎖国派かの意思決定を行い、根拠を明らかにしながら、自分の考えをワークシートに記述する。



〈個人〉

クシートに記述させた。



実践を終えて (成果と課題)

【成果】

- 意見が分かれるような論題の設定を行うこと、学習問題 I を追究する過程で知識、概念を身に付けさせること、根拠となる資料が偏らず両方の立場の意見が出るようにすることで、討論の場において生徒の発言を促すことができた。
- 意思決定の場面では、これまでなかなか自分の言葉で表現することができなかった生徒も、自分の考えをまとめようとする姿がみられ、効果の大きさを感じることができた。そして、討論のための準備時間を 1 時間設けたことで、調べた資料を使って根拠や理由を示す生徒が多く見られた。また、単元の学習を振り返りながら討論型の学習が展開されたことで、基礎的・基本的な知識、概念の定着に成果がみられた。

【課題】

- 今回の授業では論題の設定後の意思決定で片方の立場に人数が偏った。論題の設定に大きな課題が残った。
- 学習問題 I の場面で正しい知識を定着させることが不十分であったため、論理的な説明になっていない生徒が見られた。そこで、学習問題 I の授業内容を丁寧に展開した正しい知識を習得させる手立てが必要であると考える。

指導案へ

ウ 実践事例「公民的分野」

第3学年 「人間の尊重と日本国憲法」 (13/14)

本時の目標

マスメディアやインターネットなどの活動を通して、憲法に記された権利の保護と人権侵害について、根拠を基に理由を付けて自分の考えを表現することができる。


本時の展開の概要

マスメディアの活動を通して、憲法に記された権利の保護と人権侵害について、「表現の自由」「プライバシーの権利」をめぐる対立が生じていることを理解させ、意思決定を迫る。

本時に取り上げる社会的な問題【社会的な問題のパターン】

プライバシーの権利と表現の自由の保障の間で対立が生じていること【解決すべき事柄】

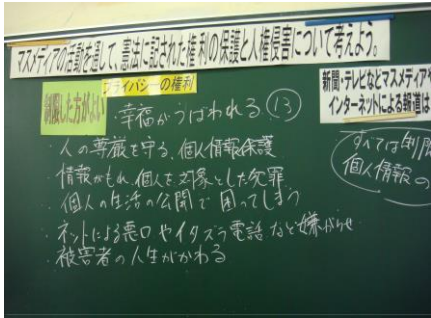
本時の様子

学 習 活 動	教師の指導・支援
○前時までの学習を振り返るとともに、本時のめあてを確認する。 〈グループ〉	○前時までの学習を、教科書やノート、ワークシートなどで振り返らせ、本時の学習のめあてについて、確認させた。
めあて マスメディアの活動を通して、憲法に記された権利の保護と人権侵害について考えよう。	
○「表現の自由」「プライバシーの権利」について、これまでの学習を振り返る。 〈学級全体〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 社会的な問題【解決すべき事柄】 インターネットやマスメディアによる報道について、「プライバシーの権利」と「表現の自由」の保障の間で対立が生じていること </div>	○これまで学習した憲法で認められた権利の中でも、マスメディアに関わりの深い権利について、「プライバシーの権利」と「表現の自由」の保障の対立について確認させ、まとめた意見を振り返らせた。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>
学習問題Ⅱ インターネット、マスメディアによる報道は制限されるべきかどうか。	
○学習問題Ⅱについて、グループでまとめた意見を、その根拠となることとともに発表する  ○学習問題Ⅱについて、他のグループの意見を聞いて再考する。(意思決定2)	○前時までの学習でまとめた意見を、理由とともに発表させ、討論をさせた。 ○他のグループの意見を聞いて、最終的に自分の意見をまとめさせた。



○権利の保護と人権侵害のバランスについて話し合い、まとめる。

〈学級全体〉



○日本国憲法が国民の権利を守る根拠となっていること、権利には対立するものもあり、その場合は「公共の福祉」により規制される権利があることを確認させた。



実践を終えて (成果と課題)

【成果】

○学習問題を基に討論型の学習を重ねていくことで、自分の考えを表現する方法が生徒に身に付いてきたのではないかと考える。現代社会では情報の取捨選択や様々な判断を迫られる場面も多く、そういった意味では今回のような授業を通して、自分の意見を述べ、またそれについての根拠を示すことができることは大切なスキルであると考え。また、話し合いを進めていく中で相手の主張の問題点や自分の主張の問題点にも気付き、さらに良い解決策を見出すことにもつながるのではないかと考え、「思考・判断・表現」の力を高めていくためには有効な手段であると考え。

【課題】

○意思決定場面において、多面的・多角的に考察し、公正に判断させるには、教師が資料を吟味して準備する必要がある。資料の提示や教師の進行によって、生徒の意思決定に対して中立を保つよう配慮する必要があると考える。

○あまりに意見の良し悪しや討論の勝ち負けにこだわってしまうと、逆に生徒の思考や判断を歪めてしまうことが危惧される。そこで、授業の中では、根拠を基に理由を示して自分の意見を論述することや相手の意見の根拠や理由を吟味することに意識を向けさせることが必要であると考え。

指導案へ